

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0990900086 | | |
| 法人名 | 有限会社 増徳 | | |
| 事業所名 | グループホームますとく | | |
| 所在地 | 栃木県真岡市京泉2203-20 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年1月7日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年3月13日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 栃木県宇都宮市若草1-10-6 | | |
| 訪問調査日 | 平成27年1月22日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりの生活ペースを大切にしながら気持ち良く過ごしていただけるよう一日一日を大切に共に生きていく思いを大切にしている。健康体力維持のために体操や運動の時間、趣味、嗜好の活動の時間を設け、張りや笑いのある生活が送れるようにしている。外へ出かける機会を作ったり、旬の食材を使い季節感を大切にしている。入居者だけでなく家族も安心できるサービスが提供できるよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は真岡市北東部ののどかな田園風景が見られる場所に立地している。周辺には高齢者の介護施設が無く、開設1年目ではあるが地域からの期待感を感じられる。事業の実施に当たり職員全員で作上げた理念は利用者や家族への思いが詰まったものであり、職員はこの理念を共有し地域密着型サービスの実践につなげている。日常の支援においては、利用者一人ひとりを大切に思い、可能なかぎり希望や思いに沿うよう、さらには、優しく見守りながら楽しく家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせるよう心がけている。事業所の所在地は代表者の地元のため、地域との関わりが良好で運営推進会議も多くの地域住民の参加で円滑に行われている。また、近隣の人達が日常的に立ち寄ったり野菜等の差し入れも多くある。健康を維持するための体操やレクリエーションを取り入れ、趣味の活動等も行なっている。日常的な散歩や買い物のほかに地域の行事に参加したり、季節ごとに花の名所や公園に出かけたり、家族の協力のもとに遠出をするなど外出支援にも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | スタッフが理念を念頭に置き実践できるよう心掛けている。スタッフが自分たちの言葉で理念づくりを行っている。 | 開設時に職員全員が意見を出し合い「ふれあい」「優しさ」「支えあい」「居心地良い生活」等利用者や家族に対する思いが詰まった理念を策定している。職員が目につきやすい施設内の事務室等に掲示し、日々振り返りながら支援に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域内の小学校の運動会参加、回覧板を回してもらい情報交換をする等、少しずつであるが地域と交流できている。散歩時の立ち話や事業所内でのお茶飲み友達が増えつつある。 | 自治会に加入しており、回覧板を通して主催行事の呼びかけをしたり地域の行事に参加している。事業所の所在地はかつて代表者や親が住んでいた所であり、近隣の人達が日常的に、かつ気軽に立ち寄り季節の食べ物や野菜等の差し入れが多い。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議や地域行事、散歩等でコミュニケーションをとり認知症の理解を得ている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回定期的に開催し、災害や徘徊事故時の協力について話し合いを持ったり、利用しやすい駐車場づくり、地域のコミュニティづくり等の意見をいただいたり有意義に運営されている。 | 区長、前区長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、利用者、家族が出席して2ヶ月に1回開催している。利用者の近況や行事の報告を行い、情報交換の場では災害時や徘徊等での協力について意見が出されその後の運営に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に出席をお願いし、事業所の実情や取組を伝えている。 | 市の担当職員が運営推進会議に出席しており、事業所の状況を良く理解してもらっている。処遇に関する相談や事業所の運営についてアドバイスを受けたりするなど日頃から良い関係作りができています。事業所と地域との関わりについても協力を得ている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 徘徊、帰宅願望の強い方がいるが、玄関の施錠はせず、ケア内容で気分展開を試みたり、車椅子上で立ち上がり転倒の恐れのある人の常時の見守りを強化することで身体拘束しない介護を実践している。 | マニュアルをもとに朝のミーティングや勉強会で理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に努めている。日常のケアにおいても適切な言葉づかいや応対を心がけている。日中の玄関は施錠せず、外出願望がある利用者には職員の見守りや付き添いにより本人の意に沿うよう支援している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止についての研修を行い理解を深めている。 | | |

グループホームますとく

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修会、リーフレット等で学ぶ機会を設けているが、活用できる支援までには至っていない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際面接し基本情報や要望を聞き、不安や疑問点を尋ね時間をかけて説明し納得の上で入居していただくことができた。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議や面接時を利用して意見、要望を出していただき反映している。(面接時間、徘徊者の服装チェック、居室連絡ボード等) | 利用者からは日常の会話などから希望等の把握に努めている。家族からは運営推進会議や面会等の来訪時に意見や要望を聞いている。これらの意見や要望は外出の計画やケアプラン作成にも反映させている。外部への意見表出についても説明している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 朝の30分ミーティングで意見を出し合う機会を作っている。 | 朝のミーティングで職員から意見や提案を聞くようにしており、検討した上で運営に反映させている。ミーティングノートや申し送りノート等を活用し、ミーティング時に不在の職員にも伝わるようにしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 問題点を管理者に伝え職場環境の整備に努めている。希望に沿った勤務ができるよう配慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 勤務に直接関係ない事でもまなべるよう勤務調整を行い学ぶ機会を与えている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡会に参加し情報交換を行っている。そこで得た情報を行事計画に生かす等している。 | | |

グループホームますとく

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初期訪問時、時間を確保し本人の言葉に耳を傾け理解するようにした。利用前であっても相談に応じられることを説明している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 介護相談を受けた時から家族の困っていることを一緒に考え良い方法を探す等関係を築く努力をした。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | サービス導入時、状況を把握し本人に適したサービスが利用できるよう支援した。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 料理や工作時等、利用者の工夫や得意な部分を教えていただく等して共に暮らし、寄り添う関係を大切にしたい。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時や電話等で情報を交換し利用者のために何が一番良いかを考え決めるようにした。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの場所へのドライブや面会に来てもらえるよう声掛けをする等した。地域の中へ出かけ知人と触れ合う機会が持てるようにした。 | 近所への買い物や神社やお墓参り等馴染みの場所への外出、お祭り等地域の諸行事に参加するなど利用者の希望に沿った支援に努めている。友人や知人には面会の呼びかけをしている。帰宅願望の強い利用者に職員が付き添って外出支援することもある。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 作品作りの助け合い、体調を気遣っての声掛け等、会話やゲームへの参加を通して仲間づくりの支援をすることができた。 | | |

グループホームますとく

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 状況悪化、入院後も家族の悩みを聞いたり次に継続できるよう支援した。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者の思いや希望を聞き、家族の方からも情報を得て意向の把握をし、ミーティング時に話し合いケアに生かせるよう支援した。 | 日常のケアの中で思いや意向を聞き取るよう努めている。家族からも趣味や外出について聞き取りを行い、実現できるよう支援している。現在、ボランティアや農家の協力による歌や家庭菜園で楽しんでいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 面接時の情報や直前の受け持ちの専門職の方から情報を基にしたフェイスシート等で個々人の現状の把握に努めた。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一日の流れのなかで一人ひとりがどのように関わることが出来るか個別シートを基に話し合ったり、レクリエーションやリハビリを通して能力を把握することに努めた。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人の変化に応じて本人、家族、スタッフ等と話し合い、現状に合った計画を作成し、良い方向に向かうようにした。 | 計画は6ヶ月ごとに見直しているが、利用者の状況に応じ臨機応変に行っている。日常のモニタリングやかかりつけ医からの情報を参考に、担当職員の意見や家族の意向を反映し、利用者がより良い方向に向かうよう介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録は少ない時間を工夫して記入するよう努力できた。また、それを介護計画に見直しの参考にした。利用者一人一人に担当職員をつけその時に適したケアができるよう話し合いを進め実践した。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 受診時等、原則家族にしてもらっているが、状況によってスタッフがでるよう支援している。 | | |

グループホームますとく

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 囲碁、大正琴のボランティアの方に来ていただき精神的な安定を図るようにしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 希望される主治医との関係が保てるよう受診前後の支援にあたっている。 | これまでのかかりつけ医への受診を尊重し継続して受診できるよう支援している。受診時の付き添いは家族対応だが状況により職員対応も行っている。受診結果等の情報共有に努め適切な医療を受けられるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | バイタルや皮膚の異常、異常行動等、看護師に伝え適切に対処することができた。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時、症状の情報を伝え治療の参考にしてもらうように努めた。また、病室訪問するなど本人、家族の相談相手になれるよう心掛けた。医師や看護師と直接会って情報交換できるようにした。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期にどこまでかかわれるかその都度話し合い、その時々で精一杯関わってきた。 | 重度化した場合や終末期のあり方については本人及び家族と早い段階に話し合いを行い、事業所が出来ることを説明している。また、意向等を確認し看取りについての同意書をいただいている。看取りの経験は無いが今後は医療機関との連携を図り支援に取り組んでいきたいと考えている。 | 今後事業所での看取りのケースも考えられることから、指針を示したマニュアルを作成すると共に、看取りに対する職員の理解を深め、事業所の体制を整えることに期待したい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | スムーズに対処できるよう訓練する機会を作っていきたい。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練時等を利用し方法や実際の動きを確認している。地域の集会時に協力を呼びかけたり、民生委員、区長等と話し合う機会を持つことができたが、まだ実際には行われていない。 | 消防署立会いのもと、防災訓練を年2回実施している。自治会総会や地域のふれあい祭りの場で地域住民に災害時の協力を呼びかけるなど、地域との協力体制づくりに努めている。食糧や水等の備蓄及びカセットコンロ等の非常用器具も整備している。 | 災害時における見守り等の協力をスムーズに得るため近隣の方々にも緊急連絡網に入ってもらい、さらに運営推進会議のメンバーからも協力が得られるよう連携方策の検討に期待したい。 |

グループホームますとく

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人一人のプライバシーを尊重し、職員間で確認しあいながら言葉かけや対応を心掛けている。 | 利用者個々の人格を尊重し言葉づかいや対応は丁寧に、呼び名は苗字に「～さん」とし利用者によっては家族からの希望で長年呼び慣れた名にしている。広報誌の写真については本人及び家族の同意を得ており、書類についてもプライバシーに配慮している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者個人の理解力に応じ声掛けし自己決定できるよう小さなことから始めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人の心身の調子や入所前の生活ペースに合わせるようにしている。職員の都合を優先しがちになることもあるので気を付けていく。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人の好きな洋服を選んでいただく等おしゃれを一緒に楽しめるようにしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 料理について教えていただいたり、材料の準備や片づけ等利用者と一緒に行っている。 | 利用者の希望を聞き、栄養士(外部)に献立の作成依頼をしているが、好みの物や食べたい物があればその都度取り入れ、食事が楽しみになるよう努めている。食材は近所の農家から差し入れの野菜を使用することもある。利用者で、できる方が準備や片付けをしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 摂取量チェック、水分量チェックを行い、月一回の体重測定で栄養状態の確認の目安にしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後歯磨きを行い清潔の維持に努めた。習慣づけることができた。 | | |

グループホームますとく

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄のパターンを知る為に記録し、オムツ外しの可能性を話し合い、布パンツに移行できた利用者が何人かいた。引き続き自立支援していきたい。 | 排泄パターンやサインを把握し、さりげない声かけや誘導などそれぞれに合ったトイレでの排泄支援に努めている。また、布パンツやリハビリパンツは利用者の特性に沿ったものの利用を勧めている。便秘対策に近隣への散歩や軽い体操を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ヨーグルト、プルーン、野菜ジュース等家族と相談し本人の習慣や好みに合ったものを摂取したり、運動への働きかけで自然排便を促している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 個々人の都合に合わせて一人一人支援しているが、入浴嫌いの方も多く清潔を保つて頂くために曜日を決めて支援しなければならない現状もある。 | 毎日入浴できるようにしており、希望により午後から夕方に入浴している。くつろいだ気分で入浴できるように入浴剤を使用したり、季節によりゆず湯やりんご湯にするなど入浴を楽しめるよう配慮している。同性介助の希望や入浴嫌いの対応にも工夫している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個人に合わせた就寝時間の確保に努めている。休息も自由にとれるようにしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の説明書を用意し理解に努めている。個々のケースを用意し二人で確認して誤薬を防いでいる。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 縫い物、貼り絵、食事づくりの手伝い、合唱等個々に合わせた支援をしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日の散歩を楽しんでいる。希望により外食や大洗水族館に出かけたりもした。家族が参加し協力を得られたこともあった。 | 日常的に近隣への散歩や買い物に出かけている。希望により市内のファミリーレストランで外食することもある。季節により桜の名所やバラの公園、コスモス畑や道の駅など、また、夏祭りや花火、運動会などに出かけている。普段は行けない隣の水族館に行くなどの外出も企画して、家族の協力もあり実行している。 | |

グループホームますとく

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人の希望に沿って買い物へ出かけたり、買い物の依頼が出来るようにしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族の電話に出たり、年賀状等で近況を報告しあっている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | フロアに手作りの飾りものを飾ったり、快適な明かり、温度等を整え居心地良く過ごせるようにしている。 | 玄関を中心に2つのユニットが左右に配置され、行ききができるようになっている。室内は明るく清潔で室温も適度に配慮されている。玄関や廊下の壁には手作りの作品が飾られ生活感が感じられる。日当たりの良いリビングダイニングは家庭的な雰囲気です居心地良く過ごせるくつろぎの場となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブルやソファを配置し自由にくつろげるよう努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室はその人らしく自由に持ち込みしてもらっている。清潔やプライバシーに配慮している。 | 居室にはエアコン、ベッド、大きめのクローゼットが配置されている。家具や生活用品類は使い慣れた物を持ち込んでもらうようになっている。室内にはそれぞれに写真や思い出の物が飾られ、それぞれのレイアウトで居心地良く過ごせるよう工夫されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | プレートをかけ、トイレの場所や自室がわかるようにした。 | | |